

青梅市立吹上中学校 学校だより 特別号

令和7年度 学校評価シート

青梅市立吹上中学校

<学校経営方針の重点>

- 1 確かな学力の向上 (知)
- 2 豊かな心育成 (徳)
- 3 健やかな体の育成 (体)
- 4 地域に根ざした学校づくりの推進

「評価」は「本年度の重点」や「具体的な方策」について
 A：達成できた B：ほぼ達成できた
 C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
I 確かな学力の向上	基礎的・基本的な学力の向上と発展的な学習を図り、個性と創造力豊かな人を育成する	個に応じた学習指導の充実に向け、きめ細かい指導を徹底する。また、指導方法を工夫し授業改善を図る。	基礎的・基本的内容を繰り返し行い、粘り強く学習する態度を育む。	B A:41.2 B:58.8 C:00.0 D:00.0	小テストを活用し、スモールステップで基礎基本の確認、反復学習をするなど工夫の見られる教材があった。	生徒がしっかり振り返ることで既習事項の確認を行い、反復学習につなげられるようにする。また個に応じた躰きに丁寧に対応していく。	B A:66.7 B:33.3 C:00.0 D:00.0	<p>○1 確かな学力の向上に関して2学期に校内研修（授業公開）を時間の都合の付く限り見せていただきました。この時に気づいた点をもとに評価させていただきました。</p> <p>○(1)見せていただいた国語科・数学科・英語科・保健体育科のどの授業においても、導入・展開・まとめのどの段階においても基礎的・基本的な内容の粘り強く学習するための工夫をされているのに感動しました。改善策の「しっかり振り返る」が文法的で具体性が欲しいです。</p> <p>○(2)見せていただいた国語科・数学科・英語科・保健体育科の授業において各先生方が導入・展開・まとめの確認・展開での課題の解決への取組み、まとめでの振り返りの工夫にカード、ICT機器の活用等様々な努力されて主体的な学びの育成に努力されていました。保健体育科において個人のカードを導入・展開・まとめにおいて個人が学ぶ意欲を高めるためにペアでの課題意識を共有化の工夫された取組みは特筆されます。</p> <p>○(3)この項目は令和7年度の校長先生の学校経営方針の中に特設された「教科で学んだ知識を活用して、自らみつけた課題について「書く」「話す」「発信する」などを表現する力の育成」に直接関わる項目です。見せていただいた国語科・数学科・英語科・保健体育科のどの授業においても、生徒が自分の考えを表現するために、ペアやグループでの自分の考えの再構築を図る努力をされていたことに感謝します。ただ、発表という表現において生徒が自信を持って活動できていない点が残念です。生徒一人一人が一人一人の持つ受けとめる力により、(2)のめあて、課題にに対しての取組みに自信をつけることが大切だと受けとめました。</p> <p>○(4)見せていただいた国語科・数学科・英語科において、導入・展開・まとめのそれぞれの段階においてICT機器の活用で工夫されている姿に感動しました。この分野の活用は、教師と生徒との応答を含めて授業のあり方について根本的な対応能力（あり方）が「分析結果」に記された通りに求められると感じました。</p> <p>○41. 2%の先生方が(1)をAと評価されたご尽力に敬意を表しますとともに(2)(3)(4)での更なる改善にご期待申し上げます。</p> <p>○常に小テスト実施の明確な意図説明と実施の工夫が必要。</p> <p>○現代は社会でも自分の考えをアウトプットできる力が求められています。相手の声を聞き、自分の意見を述べる能力を高めてほしいと思います。</p> <p>○確かな学力の向上を図るための具体的な方策それぞれについて「A」「B」評価が得られたことはとても良い。一方、ICT機器の活用についての項目で、「C」評価が11.8%あった点が気になる。具体的にどのような点が達成できなかったのかを確認、検証する必要があると考える。</p> <p>○ICTは道具であり、使うことが目的にならないように。ツールとしての最適な活用をする。手書きの大切さと良さを教えること。</p> <p>○勉強しながら通学している生徒が多く見られた。</p>	
			めあて、課題、まとめ、振り返りを適切に設定した授業を行い、生徒の主体的な学びを促す。	B A:23.5 B:76.5 C:00.0 D:00.0	教師主導の場面と生徒の主体的な学びの場面を単位の授業の中に計画的に取り入れていく必要を感じる。	一単位の授業の中に対話形式を取り入れるなど、主体的な学びにつなげていきたい。教師は支援に回りその学びを軌道して行く。	B A:50.0 B:50.0 C:00.0 D:00.0		
			生徒が自分の考えを表現したり、他と比べたりしながら、自分の考えを再構築する場面を設定する。	B A:17.6 B:82.4 C:00.0 D:00.0	対話を通して自分の考えを再構築できる学習場面を意図的に設けることが大切である。一方、自分の考えを表現することが苦手な生徒への対応は難しかった。	自己表現の苦手な生徒を把握し、考えを導くような支援を行うことで苦手意識の解消につなげていく。	B A:16.7 B:83.3 C:00.0 D:00.0		
			ICT機器の活用、課題設定の工夫など、生徒が主体的に学習する意欲を育む。	B A:23.5 B:64.7 C:11.8 D:00.0	ICT機器の活用に向け教師のスキルアップの必要性を感じた。	ICT機器の活用に向け、定期的な研修機会を設け、授業に取り入れる場面を増やしていく。	B A:16.7 B:83.3 C:00.0 D:00.0		

2 豊かな心の育成	互いの人格を尊重し、いじめの根絶を目指すとともに、思いやりと規範意識のある人を育成する	いのちを大切にす 心の教育を推進し、 いじめの根絶を目指 して、思いやり、認 め合い、支え合う指 導を充実させる。	学校いじめ防止基本法 に則り、いじめアン ケートを活用し、いじ めの未然防止・早期発 見・解決を図る。	B A:47.1 B:52.9 C:00.0 D:00.0	いじめアンケート後は もちろん、気にな ることは教員間で 共有するなど、す ぐに指導につなげ る体制ができてい る。	今後も学校いじめ 対策委員会を中心 に、いじめの早期 発見、早期対応を 進めていく。また 得られた情報を 日々の生徒理解に つなげていく。	B A:50.0 B:50.0 C:00.0 D:00.0	○(1)評価でAが47.1%と約半分を占め、「いじめアンケート後 はもちろん、気になることは教員間で共有するなど、すぐに指導 につながる体制ができています。」の分析結果からも先生方のご尽 力の様子がよくわかります。また校長先生から教育委員会との連 携もとられているという点でより良い方向だと思います。 ○(2)「道徳」の公開授業が1月17日で授業の様子からの評価は できませんが、Aが11.6%(1)の三分の一です。「改善策」を 令和8年度の「特別の教科 道徳」・日常の生活に着実に定着される 実践を期待しています。 ○(3)「具体的な方策」については先生方の「分析結果」にあり ますように、吹中にいつ行っても校内がきれいで整理整頓され ていて感動します。また、校庭もよく星美されています。「体育 祭」「芸術祭」など学校行事で仲間・感動・本物体験の心が生徒 に育成されていることがよく伝わりました。 ○(4)2学期に校内研修(公開授業)の参観のために吹上中を訪問し ました。どの時間訪れても、出会った生徒の皆さん全員から快い あいさつをいただきました。すばらしいです。行事で体育館を訪 れることが何回かあったのですが、生徒の皆さんの上履き・下履 きの履き替えの様子を見ていますと心がこもっていました。 ○「豊かな心の育成」は、思春期にある中学生が学校という集団 生活送る中で最も大切なことであると思います。4つの項目で 「A」「B」評価が得られたことはとてもすばらしい。今後も生 徒さんの悩みや相談事に向き合い、寄り添い、信頼される先生で あってください。 ○吹上中学校の生徒さんはあいさつがとてもよくできていると感 じます。あいさつは生活の基本です。いつも気持の良いあいさつ を心がけていきましょう。 ○「目立たない仕事」に気付いて行動できた生徒さんがいたら、 たくさん褒めてあげてください。見てくれている、認めてもらえ ていると思えることが嬉しいのです。 ○毎年、吹上中学校の生徒は挨拶がしっかりできている印象があ ります。一方で、A評価が17.6%であったのが気になりました。	・学校はいじめ問題につ いて根絶を目指し取り組む必 要があります。そこで日頃 の生徒の様子を観察する とともにアンケートを実施 するなど、教師が生徒の変 化を把握し、早期発見、早 期対応を行ってまいりまし た。今後も教職員一丸と なって取り組んでまいりま す。 ・「特別の教科 道徳」では 教科書の学習のほか、生徒 の身近に起こっている課題 も取り上げるなど、工夫し て取り組んでいます。また 授業以外の様々な場面で 「こころの教育」を行って おります。これらの取り組 みが、挨拶の励行、目立た ない仕事への従事、校内美 化の取り組みなどにつな がっていると思っております。 今後も生徒が活躍する 場面を設けるなど、自尊意 識を高める教育活動を進め てまいります。
			「特別の教科 道徳」の 指導に向け、広い視野 から現在の課題をとら え指導につなげるこ とで、「こころの教育」 を充実させる。	B A:17.6 B:82.4 C:00.0 D:00.0	生徒の実態や学級 の課題をもとに、 生徒が自分の生活 と結び付けて考え られるよう授業を 構成した。	生徒が授業で得ら れた気づきや価値 観の変容を、日常 生活により確実に 定着させるための 仕組みを築き改善 していきたい。	B A:00.0 B:100 C:00.0 D:00.0		
			様々な教育活動を通し て感動する心を育てる 環境づくりと場を設定 する。また行事や生徒 会、委員会活動を通し てリーダーの育成を図 る。	B A:29.4 B:70.6 C:00.0 D:00.0	目立たない仕事 (ﾊﾞｰﾊﾞｰやせっけ ん液の補充など) の大切を伝えるこ とができた。また 各行事では生徒が 関わる場面を増や すなど工夫して取 り組ませることが できた。	一部の生徒に偏ら ないように工夫す る。また行事以外 の場面(日頃の学 校生活)でも成功 体験や心が動く活 動を取り入れてい く。	B A:16.7 B:83.3 C:00.0 D:00.0		
			規範意識の醸成、あい さつの励行、礼儀作法 の徹底を図り、生徒の 社会性を育む。	B A:17.6 B:82.4 C:00.0 D:00.0	日常の学校生活の 中で基本的な生活 習慣や礼儀作法を 繰り返し確認しな がら定着を図るこ とができた。	教職員が気を緩め ることなく「どの 場面でも同じ行動 基準が示される」 よう、学校全体で の共通理解を深め ていく。	B A:50.0 B:50.0 C:00.0 D:00.0		

3 健 や か な 体 の 育 成	健康や体力に関する意識を高め、健康の保持増進に向けた資質や能力をもった人を育成する	心と体の健康を増進させるとともに、生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進し、不登校の未然防止を図る。	生徒に寄り添う指導を意識するとともに外部機関と連携し、不登校生徒と家庭の支援を組織的に行う。	B A:52.9 B:47.1 C:00.0 D:00.0	段階的な登校支援、短時間からの参加など、生徒の状態に合わせた柔軟なアプローチを行い、安心して学校生活を送ることができる環境を整えた。	支援内容が担任や学年に依存しやすく、学校全体としての支援モデルが十分に共有されていない点が課題であり、今後誰が対応しても同じ質の支援が提供できる体制を築いていく。	B A:66.7 B:33.3 C:00.0 D:00.0	<p>○(1)吹上中学校先生方の評価で52.9%のAは令和7年度吹上中学校評価で評価Aの最も高い項目です。「分析結果＝段階的な登校支援、短時間からの参加など、生徒の状態に合わせた柔軟なアプローチを行い、安心して学校生活を送ることができる環境を整えた」という先生方のご尽力をA評価する先生方が52.9%あるということに心より感謝申し上げます。ただ、残念なことに学校運営協議会で「分析結果」のご尽力の様子がよく伝わらなかったのは残念です。</p> <p>○(2)体育大会・文化祭などの学校行事で主体的な活動や生徒の居場所づくり、きずなづくりが大きく育まれていることがよくわかります。それは、吹上中学校の先生方が「具体的な方策」を共通理解・共通実践された結果だと確信します。このことが生徒の学校行事に対する「困難を乗り越える本物体験」「困難を乗り越える感動体験」により「困難を乗り越える仲間づくり」となり「成功体験」を享受できた。と確信します。</p> <p>○運動会での生徒さん一人一人の頑張りはもちろん、団体演技の美しさにはとても感動した。限られた練習時間の中でしっかりと協力しあい、本番での成功に繋がったことに拍手をおくります。</p> <p>○(3)吹上中生徒の「健康的なリズムの確立」につきましては、学校訪問だけではよくわかりません。しかし先生方の評価でAが17.6%Cが11.8%と評価が大きく分かれています。やはり「解決策」にありますように「家庭と連携した生活環境づくり」が大切だと思います。令和8年度には家庭との連携した取組みの様子を適宜学校運営協議会委員に教えていただければありがたいです。</p> <p>○「健康的な生活リズムの確立」の項目で「C」評価が11.8%あるのが気になる。一番の成長期において生活リズムを確立し、健康的な生活をすることはとても大切。家庭と連携し、改善されることを望む。</p>	・不登校対応巡回教員が週1日配置されました。不登校生徒の別室支援員とともに担任と連携し不登校生徒の支援に取り組んでおります。そして生徒の中には一部の授業に参加できるようになるなど、少しずつ成果を感じるようになりました。今後も生徒に寄り添い、丁寧な対応を心掛けることで不登校生徒数の改善に努めてまいります。 ・学校行事での実行委員をはじめ生徒一人一人が活発に活動できるのは、指導する教員の綿密な計画があったことです。今後も続けていくとともに吹上中学校のすばらしいところとしてこの良さを今後も継続できるように生徒と協力して取り組んでまいります。
			生徒会活動や行事を通して、生徒の主体的な活動や生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進する。	B A:35.3 B:64.7 C:00.0 D:00.0	生徒が協力して取り組むことで、仲間の良さに気づくとともに成功体験を積み重ねることで自己肯定感の醸成を図った。	より多くの生徒が活躍できる機会の設定に課題があるため、意欲や特性に応じ、誰もが少しでも関わられるような仕組みづくりをしていく。	B A:33.3 B:66.7 C:00.0 D:00.0		
			健康的な生活リズムの確立と健康増進に向け、自己管理のできる生徒の育成を図る。	B A:17.6 B:70.6 C:11.8	生活リズムが確立し健康的な生活ができている生徒がいる一方、食事や睡眠などバランスが悪い生徒も一定数いる。	学校での指導には限界があるため、家庭と連携して生活習慣作りに取り組んでいきたい。	B A:16.7 B:83.3 C:00.0 D:00.0		

4 地域に根ざした学校づくりの推進	地域に根ざし、地域から信頼される学校の推進	学校を地域に開き、地域の人材を活用しながら教育活動の充実を図る。	学校公開や学校だより・学級だより・HP等で教育活動の様子を積極的に公開し、地域の関心を高める。	B A:11.8 B:82.4 C:00.0 D: 5.8	様々な便りを通して学校の教育活動を発信することができた一方、学校HPについてはさらなる工夫の必要性を感じた。	今後も先の活動を継続、工夫することで、学校からの情報発信を進めていきたい。	B A:16.7 B:66.7 C:16.7 D:00.0	○学校を地域に開くということで、学校公開を1学期は4月21日～4月26日まで、2学期は9月29日～10月3日までと落ち葉掃き(学校公開)、3学期は作品展を兼ね3月2日～3月6日までと吹上中学校は校務超多忙の中で実施させていることに敬意を表します。私は2学期の学校公開に都合が付く限り参りました。感じましたことは1学期・2学期・3学期ごとに学校公開の意図(ねらい)を伝えていくことが保護者・地域に吹上中学校の教育活動の様子がより伝わるのではないかと感じました。例として「1学期:学級での人間関係の築きと学習との関り、2学期:仲間として成長した学級での学習との関り……」を保護者・地域に伝える工夫をされたらいかがでしょう。 ○毎回、学校だよりを楽しく拝見しています。様々な行事や活動が分かりやすく紹介されていてとても良い。地域の回覧板でも学校だよりが回覧され、中学生が居ない家庭の方々にも中学校の教育活動の様子が公開されるのは好ましい。その結果として、地域の方々からの理解や関心が得られると思う。 ○HPについては更新が項目により新しくったり、古い内容がそのままだったりしている。責任者が全体を点検することができていないように思われます。ただ、吹上中学校に限ったことではありません。他の小中学校においても同様な傾向が見られます。学校の情報を得るための方法としてHPは大切なものだと考えます。 ○昨今では地域間のつながりも以前より希薄になっている気がします。ぜひ、率先して子どもたちと地域との交流をつくっていただきたいと思います。	・今年度より学校公開の機会を増やしています。今後も継続するとともに保護者の皆様の参加率向上に向けて、お知らせのほか一斉メールでの情報発信や公開授業で生徒が活躍する場面を公開する(生徒が発表する機会を見てもらう)など工夫してまいります。また今後は地域の皆様への公開も視野に入れ検討してまいります。 ・HPの更新については次年度に向け準備するなど、改善に向け取り組んでまいります。
		地域運営学校として、学校と地域の協働による開かれ、信頼される学校づくりを進める。安心安全な学校づくりをめざし、地域に協力を仰ぎながら、交通安全教室や青梅学、環境教育等、地域人材を活用して、特色ある教育活動を推進する。	地域運営学校として、学校と地域の協働による開かれ、信頼される学校づくりを進める。安心安全な学校づくりをめざし、地域に協力を仰ぎながら、交通安全教室や青梅学、環境教育等、地域人材を活用して、特色ある教育活動を推進する。	行事をはじめ、様々な教育活動を通して、地域の大人から学ぶ機会を設けることができたり、生徒の学びの広がりにもつながった。	B A:17.6 B:82.4 C:00.0 D:00.0	地域との連携は担当者や行事の種類によってばらつきを感じた。また活動が単発的になりがちで、学校全体としての体系的な連携が十分とはいえないため、組織の再構築を進める。	○「具体的な方策」として「地域運営学校として、学校と地域の協働による開かれ、信頼学校づくりを進める。」がありますが、令和7年度、校長先生は令和6年度の学校関係者の評価をもとに「学校の見解と今後の方向性」を受け、学校経営方針に活かされました。「具体的な方策の協働」を校長先生自ら実践され、誠にありがたいことです。 ○「具体的な方策」の「地域の人材を活用しながら教育を充実を図る。」で交通安全教室、青梅学(地域の歴史と文化を学ぶ)、環境教育(落ち葉掃き)などで地域の方々と協働して教育活動の充実を図ったことも素晴らしいことです。これからも他分野での活用が期待されます。	・今年度も交通安全、青梅学、落ち葉掃きなど様々な場面で、地域の皆様のご協力を得て進めることができましたこと感謝申し上げます。 ・今後も学校の教育活動については学校運営協議会委員の皆様の見解も取り入れながら進めてまいります。	

5 その 他の 重点	特別支援教育の推進	生徒一人一人の特性を理解した指導を行う。	・生徒の特性について共通理解を図り指導につなげる。また指導方法について研修を行い、生徒指導に生かす。 ・教育相談活動を充実させるとともに、SCや外部機関と連携し、生徒の課題解決を図る。	B A:41.2 B:58.8 C:00.0 D:00.0	教員間や保護者との情報共有をもとに生徒の課題を的確に把握し指導に生かすことができた。また外部機関との連携を図り生徒の課題解決につなげることができた。	支援情報の共通理解と共有方法を工夫し、教職員が生徒の特性や課題を理解し個に応じた指導につなげていく。	B A:66.7 B:33.3 C:00.0 D:00.0	○二学期の授業公開で数日授業を拝見させていただきました。特別支援学級のどの先生方も「本年度の重点:生徒一人一人の特性を理解した指導を行う。」のために努力されている姿を拝見することができました。先生方のこのようなご尽力を経て生徒が一人一人自分の考えを個性として発露する姿を拝見しました。生徒一人一人の笑顔が印象に残っています。その笑顔は生徒一人一人の自己肯定感の高まりを表しているかと確信します。7月8日(火)のSOS教育(SC)を拝見したかったです。 ○特別支援を必要とする生徒さん一人一人が、学校が楽しいと思える環境づくり、保護者さんが安心してお子さんを送り出せる学校であってほしいので、引き続きの支援、ご指導をお願いしたい。	・一部の教科で昨年度より、ときわ学級と通常学級の生徒が同じ授業を受ける取り組み(共同学習)は、今年度も継続しております。少しづつではありますが本校におけるインクルーシブ教育につながっております。今後もこの取り組みを継続させ、全教員が特別支援教育のスキルの向上を目指してまいります。 ・「働き方改革」については様々な手立てを講じ取り組んでおります。今後も校務の効率化と合わせて、教員相互のサポート体制を築いてまいります。 ・部活動の地域移行については進捗状況が不明な点も多く、学校としても今後の部活動のあり方について対応を苦慮しております。今後、吹上中の部活動をどうするかについては、学校運営協議会委員の皆様にも意見を聞きながら考えてまいります。
	学校における働き方改革の推進	校務改善を図り、生徒と向き合う時間を確保し、教員のライフワークバランスを整える。	・ICT機器の活用や、SSS等の支援員を活用することで校務改善を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 ・在校時間の適正化を図るため、定時退勤推奨日を積極的に活用する。 ・年休や育業等を取得しやすい職場環境を推進する。	B A:47.1 B:52.9 C:00.0 D:00.0	資料作成、出欠管理、情報共有におけるICT機器の活用やSSS等のサポートにより、教員の業務負担軽減を図ることができた。	今後も校務を整理し業務分担の適正化を図る。引き続きICT機器やSSSの活用を進め、校務の効率化を図る。特にICT機器の活用に向け研修を行い、誰もが扱える組織にしていく。	B A:50.0 B:50.0 C:00.0 D:00.0	○経営目標の「学校における働き方改革の推進」での吹上中学校の教職員の皆様の評価は評価AとBで100%でCとDがありません。このことから、「学校における働き方改革」が推進されていることが読み取れます。「改善策」にありますように「校務分担の適正化」「ICT機器やSSSの活用推進し校務の効率化」の推進を図り、「学校における働き方改革の推進」にご尽力ください。 ○「学校における働き方改革の推進」については、昨年の評価では「C」、「D」評価が見られたが、今年度は「A」、「B」評価のみとなった点は良かった。さらに業務負担が軽減され、先生方のライフワークバランスが整うよう期待したい。	

評価について(評価欄にある「A」「B」「C」「D」の数値の単位は「%」)

A: Aの評価者が80%以上C以下の評価者が0名 ⇒ C以下の評価者がいた場合はB

Aの評価者が70%以上80%未満が一番多い。かつA、B合計の評価者が90%を超え、C以下の評価者が0名 ⇒ C以下の評価者がいた場合はB

B: Aの評価者が70%未満が一番多い。

Bの評価者が一番多く、かつA、Bの評価者が60%を超えている場合 ⇒ 60%を超えていない場合はC

C: Cの評価者が一番多い場合

D: Dの評価者が一番多い場合

令和7年度の「学校評価シート」について、「学校教職員の自己評価」、「学校運営協議会委員の学校評価」、「学校の見解と今後の方向性」についてまとめました。ご覧くださいませよう願いたします。